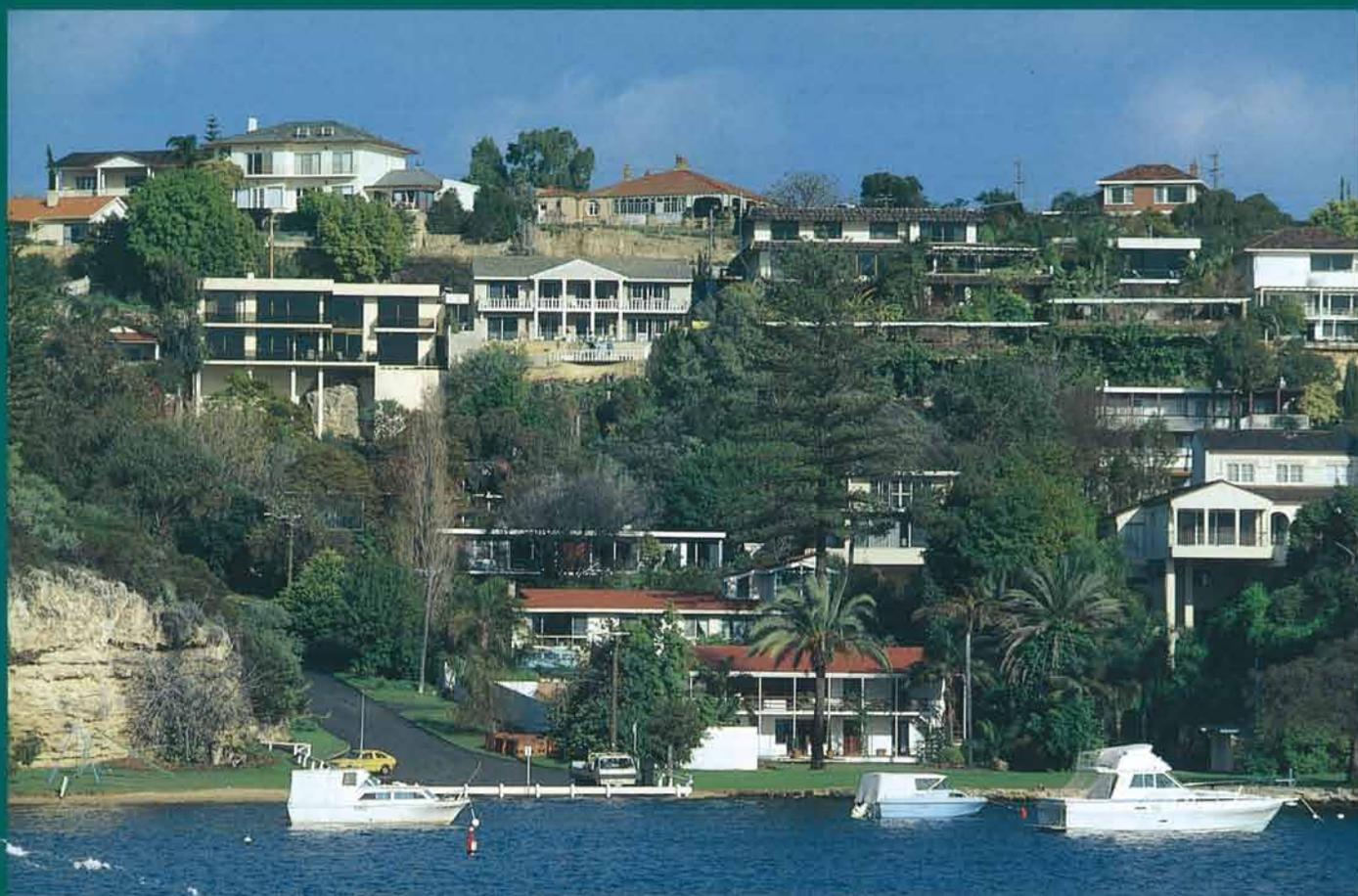


YAMAHA MARINE NEWS

ヤマハマリンニュース No.101



特集/ウォータービークル今どきのW.V.ファン

MJ、そしてMJシヨツプの ここが好き、ここがキライ

THIS IS IT! いよいよ発売開始
MJ-1100RA/MJ-700VN

■期間連載■SRVニュースVOL.1
ボートショー、RVショー…、各地でSRVデビュー!

'95
4・5
月号

いよいよ発売開始、驚異のニューモデル

MJ-1100RA&MJ-700VN



タンデム・スポーツモデルの最高峰
国内外の話題独占!!

MJ-1100RA

現行のパーソナルウォータークラフトの中では最大クラスの新型エンジンを搭載したMJ-1100RA。加速性に優れたその走りは、ハイスピードライディングはもちろんのこと、ロングツーリングにも十分なパフォーマンスを引き出します。

●セールスポイント①/大排気量の新型エンジンとジェットポンプ
MJ用に新開発された2ストローク直列3気筒、排気量1051ccの大型エンジンを搭載し、最高出力は106馬力。ジェットポンプはMJ最大の155mmで、安定した推進性能を生み出します。その結果、あらゆる回転域でレスポンスの良い加速を得ることができます。

●セールスポイント②/ハルは高性能エンジンにベストマッチ
MJ-700RAで定評のステップ付きダブルチェーンV型ハルを採用。高速域でのコントロール可能な走りを楽しめます。

●セールスポイント③/新デザインの多機能ゲージ
スピード計、オイル計、燃料計、オイル切れ/燃料切れ警報、オーバーヒート警報、そしてアワーメーターを表示する多機能ゲージが、見やすくレイアウトされています。

●セールスポイント④/クイックシフト・トリムシステムを採用
ハンドルバーとトリガーのクイック操作でジェットノズルの上下方向を変えることで、海況やライディングの状態に最も適したトリムアングルで走行することが可能です。

●全長:2.86m●全幅:1.12m●全高:0.97m●完成重量:235kg●燃料タンク容量:50ℓ●ストローク/気筒数:2/3●最大馬力:106PS/6250rpm●総排気量:1051cc



ロングツーリングに対応する機動性と安定性
3人乗りの大型モデル、間もなく発売

MJ-700VN

年々高まるパーソナルウォータークラフトのファミリーレジャーユースに応え、新たに開発された3人乗り大型モデル。安定性、操作性にすぐれ、その上パワーと機動力を兼ね備えているので、ロングツーリングを初めあらゆるマリッジットプレイをマルチに楽しめます。

●セールスポイント①/操作性、安定性に優れた大型ハル
体格の良い大人3人が余裕を持って座れる大型シートを備え、走行時、静止時を問わず安定性を発揮。さらに操作性は艇体の大きさを感じさせないほど軽快で一人乗りとしても十分楽しめます。ハルは新開発のダブルチェーンV型を採用。

●セールスポイント②/ロングツーリングに対応する余裕のスペック
新開発のハルは凌波性に優れ、波のある海面でも安定した走りを生み出します。また、座り心地の良い二重パッドのシートを備え、長時間乗っても疲れにくい快適な走行を楽しめます。さらに大容量の燃料タンク、大型の収納ボックス等、ロングツーリングを意識した装備を施しています。

●セールスポイント③/各部に高性能パーツを採用
ヤマハ独自のリバースシフト（後進用シフト）を標準装備したほか、多機能メーター、スタイリッシュなアジャスタブルミラー等、各部に機能性の高いパーツを採用しています。

●全長:3.15m●全幅:1.25m●全高:1.00m●完成重量:240kg●燃料タンク容量:50ℓ●ストローク/気筒数:2/2●最大馬力:76PS/6250rpm●総排気量:701cc

'95
4・5
月号



SWAN RIVER(AUSTRALIA)

CONTENTS

- 特集4
今どきのW.V.ファン/
MJとMJショップのここが好き、ここがキライ
- 浜を訪ねて10
佐藤鉄工所(宮城県)
- 期間発行/SRVニュース12
SRVのプロフィールに各地で驚嘆の声!
- YAMAHA NOW14
イベント、グッズ、他、ヤマハ最新情報
- SPECIAL TOPICS17
アメリカスカップ情報/ニッポン、セミファイナルへ!
- マリンショップ見聞録18
向島ドッグ・マリーナフェアウインド(広島県)
- HOT EYE20
太平洋縦断5500マイル/YOCスタート

THIS is IT!

新発売!

マリンジェット専用ギア「ウェーブゲッター」

洗練されたデザインと高度な機能性を合わせ持つジェットライダーのための専用ギア。ウェットスーツからライフジャケット、グローブ、ブーツなど、さらにアフター&ピフォアのためのウェアまで、シリーズ展開いたします。お客さまにぜひご紹介ください。



ボレロWG105 **¥31,000**
ロングジョン WG106 **¥46,000**

MOBBY'S®共同開発モデル
カラー●A)ブラック/バイオレット/イエロー
●B)バイオレット/ブラック/レッド
素材●3/2mmネオプレン
バックストレッチャー、足首チャック装備、ロングパッド、
ロングジョン背ファスナー



ボレロWG101 **¥28,000**
ロングジョンWG102 **¥37,000**

カラー●A)ブラック/パープル/ピンク
●B)ラベンダー/ビスタチオ/イエロー
素材●3/2mmネオプレン、メッシュスキン
腹部メッシュスキン、足首チャック装備、メルコシート、
ロングパッド、ロングジョン肩ベルクロ着脱式



ライディングジャケットWG108 **¥13,800**

カラー●A)フラッシュイエロー ●B)フラッシュピンク
素材●ポリエステル
サイズ●M、L



ライディンググローブWG110 **¥4,800**

カラー●ブラック/バイオレット
素材●ポリエステルメッシュ、アマール、ケブラー縫製
サイズ●S、M、L



ウェットブーツWG109

¥14,800
カラー●ブラック/バイオレット
素材●2mmネオプレン
サイズ●22、23、24、25、26、27、28cm



●ヤマハマリンジェットクラブへの入会をおすすめください。

今年もヤマハマリンジェットクラブでは、全国各地でさまざまなイベントを開催予定。ぜひお客さまへマリンジェットクラブ入会をおすすめください。また、まだ加盟店になられていない販売店さまにはこの機会にぜひ登録を。

ヤマハマリンジェットクラブレース全国大会

9月23日(土)~24日(日)/滋賀県琵琶湖

ヤマハマリンジェットクラブメンバーの祭典。MJレーサー日本一を決定するレースをはじめさまざまなイベントを企画中です。

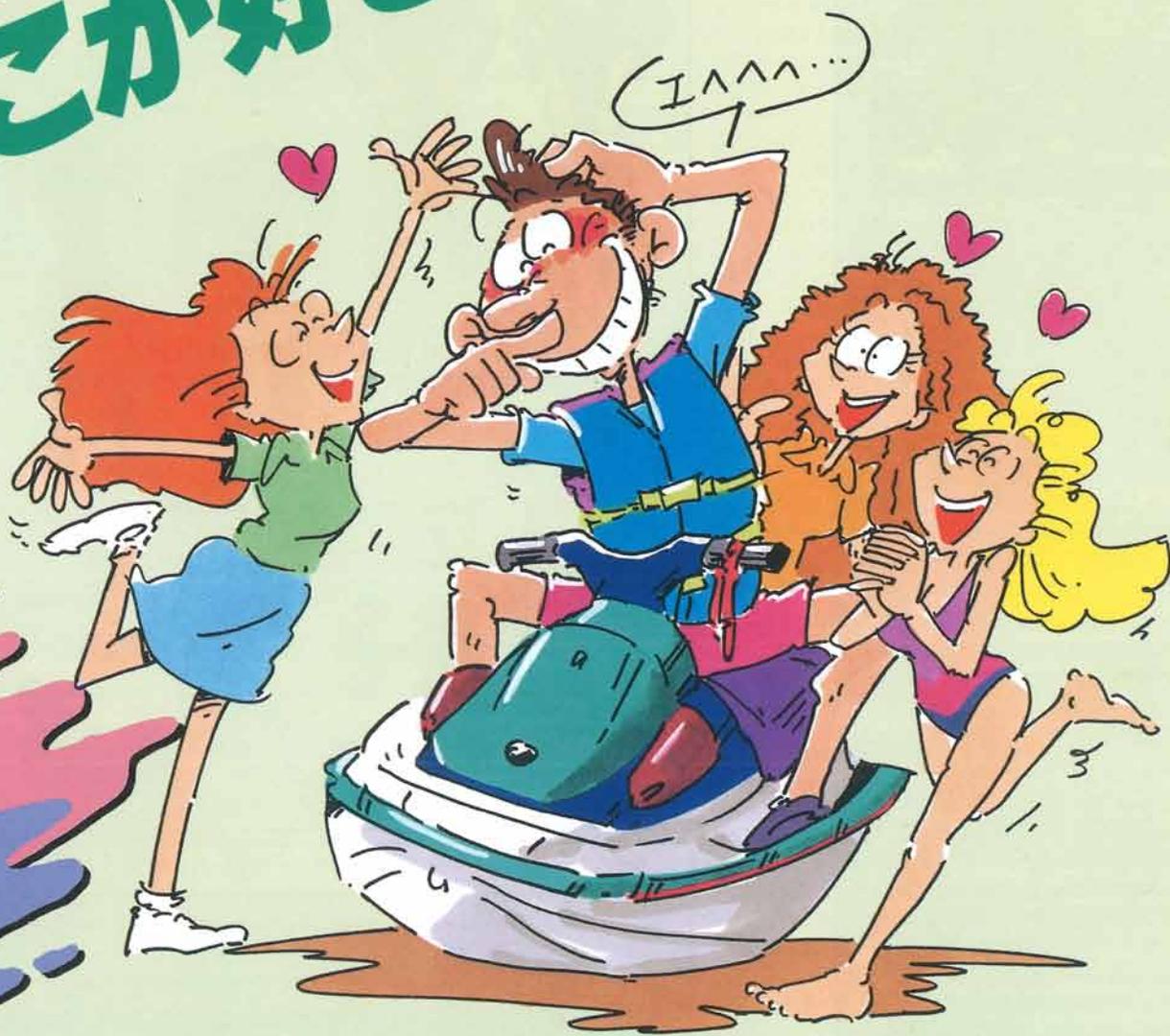
特集

今どきの

ウォーター ビークル

W.V.ファン

MJ・MJショップの ここが好き、ここがキライ



マリッジットの画期的ニューモデルMJ-1100RAはいよいよ発売開始、同じくニューモデルのMJ-700VNも間もなく発売。本格的なジェットシーズンを控え、皆さまのご商売もますます忙しさを増してきたのではないだろうか。さて、今回のMJ特集はポートショーに来場したユーザーたちの声を中心に焦点を当ててみた。題して「MJとMJショップのここが好き、ここがキライ」。セールスのヒントになる話から、ちょっと耳の痛くなる話までを思いきって紹介する。

さて、今どきのジェットライダーたちはヤマハのマリンジェットに対してどんな思いを抱いているのか。さらにどのような基準でマリンジェットを、そして購入するお店を選んでいるのか……。そんな話を聞いてみようと考えて来たのが、東京国際ポートショー・ヤマハブースのマリンジェットコーナーである。ときは週末、それにしてもすごい人だかりだ……。

今どきのW・Vライダー……①

おなじみのマリンジェットは……

注目度ナンバーワンは1100RA! 700TZは根強い人気

まず、最初の質問はズバリ「興味のあるモデルはどれですか」というもの。その結果をグラフに示してみた。

予想通り、トップはニューモデル・MJ-1100RA。来場者の大半の人がこのハイパフォーマンスマシンに引かれ

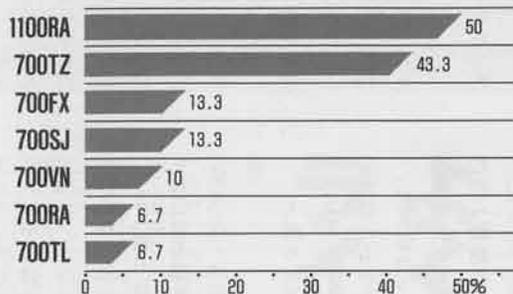
た、というわけだ。1100RAを選んだ理由をいくつか紹介してみよう。

「友達の手持っている700RAに乗せてもらったことがあるんですが、走りが軽くて非常に良かった。さらにパワーアップした1100は魅力的ですね。予算との折り合いがつけば欲しいです」(千葉県/24歳・会社員/他社モデル所有)

「MJのタンデムは高速でのターンもしっかり水をつかむ。安定性もある。それに高馬力が加わったのだからきつとすごいだろう」(神奈川県/年齢不回答・会社員/650SJ、700FX所有)

現在市販されているパーソナルウォータークラフトの中では、国内外問わず、間違いなく最高のパワーを備えた同モデル。昨年から専門誌等でも紹介されてきており、買う買わないは別として、注目されるのは当然といえよう。しかし2位はどうだ。何と発売以来3年目を迎えた700TZのニューカラーが1100RAとほぼ同数で並んでいるのだ。

東京国際ポートショーで聞いた
「あなたが興味をもったモデルは？」



●編集部調べ(2/11~12)※複数回答



東京国際ポートショーでの注目度
No.1はMJ-1100RA。
3シーズンめとなる700TZの人気も
ニューモデル1100RAに匹敵する





ランニングシューズに対するイメージは…… 壊れない、扱いやすい、レースに強い! 女の子に「キョトン」?

今までのW・V・N……②

「速いし、レースで活躍していることが理由です。それにオシャレ。このモデルが出た時、ヤマハは完全にK社に並んだという印象を受けました」(埼玉県/33歳・会社員/他社一人乗りモデル所有)
これがTZを選んだ人の代表的な回答で、特にレースでの活躍ぶりが高(好)ポイントに結びついているのが特徴だ。
ニューモデル700VNを含め3人乗りモデルの支持率が低い気がするが、これはインタビュアー(女性)の趣味で若い男の意見に偏ってしまったためと思われる(スミマセン)。

「知人に海釣りに連れていってもらった時MJを目にして楽しそうだなと思いましたが、VNは大きくて安心して乗れそうですね。カッコいいし」(東京都/22歳・女子大生/未所有)
「3人乗りは家族で楽しむのいいね。VNは色も落ち着いていて好感が持てる」(埼玉県/36歳・会社員/650TL所有)
一人乗りモデルを挙げる人の意見も聞いてみたが、かなりマニアックで一本気な性格の方が多かったように感じた。
「FXはカッコいい。ちょっとハンドルの幅が狭い気がするけど、交換すれば済むから問題ない」(千葉県/年齢不回答・

土木業/他社モデルをグループ所有)
「何といってもFXかSJだ。スタイリングはどのメーカーのものよりも良い」(埼玉県/38歳・公務員/MJ購入予定)
ごく少数意見ではあったが次のような意見もあったので記しておこう。
「VNのカラーは好きじゃない。俺の趣味に合わないんだよ。いいエンジン積んでんのもつたない」「TZのスタイリング、何とかならないか。それにあの赤は嫌いだ」
万人の好みに合わせることは非常に難しいと思うが、ヤマハのデザイン、カラーリングは年々完成度が高まっている。

次はヤマハマリンジェットのリインナップ全体のイメージを聞いてみた。
これについても全体的に好意的な意見が多く、関係者にとっては喜ばしい限りである。何といても「信頼性」という面では、最強のセールスポイントになるだろうという手ごたえがあった。

「使いやすいし、メンテナンスの面もいい。周囲の評判もいいのでヤマハしか見ていません」(東京都/25歳・会社員/TZ所有)
「ヤマハは壊れない。高品質というイメ

ーじ。周りにいるヤマハユーザーを見て、うらやましいと思ってきた。今持っているモデルはすぐ壊れる」(東京都/30歳・自営業/他社一人乗りモデル所有)
「速い」「レースに強い」というイメージも多くの人が持っている。
「ここ数年でヤマハは良くなった。レースに強いというイメージがある」(東京都/27歳・会社員/他社モデル所有、TZ購入予定)
さらに「カラーとスタイリングがいい」という意見。これも個人的趣味の分野だ

依然続くTZ人気!!

93年の冬に発表され、人気を博したMJ-700TZ。95年、そのニューカラー・モデルが発売され、3シーズンめを迎えようとする今も、相変わらずその人気度は高い。
「波とライターが一体化することコンセプトに開発されたTZは、いわゆる「タンデムスポーツモデル」の位置づけを明確にしたウォータービークルで、高いシート位置での乗りやすさ、コーン・ケープ・マルチハルの採用による旋回時の安定性などが好評だ。

MJ-700TZ

- 全長:2.43m ●全幅:0.88m ●全高:0.91m
- 完成重量:145kg ●燃料タンク容量:25ℓ
- ストローク/気筒数:2/2 ●最大馬力:63PS/6250rpm
- 総排気量:701cc





ボートショーで聞いたヤマハの評判/ベスト5

- ①ヤマハのエンジンは壊れにくく、信頼性は高い
- ②ヤマハのMJは速く、レースにも強い
- ③グラフィックはおしゃれでカッコいい。が中には個人的趣味に合わないものもある
- ④モデルチェンジのペースが早い(これはヤマハだけでない)
- ⑤ヤマハスタンドアップ・ファンとしては少しくヤシイラインナップ

が、少なくともヤマハブースに来ていた人たちは好意的だ。

「全体的にオシャレな感じ。カラーリングがいかにもという感じで良い」(埼玉県/22歳・専門学校生・女性/未所有)

「ヤマハのモデルって、何だか楽しそうですよ」(埼玉県/24歳・臨床検査技師・女性/免許取得直後で物色中)

さらに褒めてるのか貶してるのか、なんだかわからなかったものとして……

「K社は硬派。ヤマハは軟派。だが女の子にモテるからヤマハの方がいい。もっと女の子に(お店に)来てほしいから店の人にヤマハを扱うように説得している」

(東京都/27歳・会社員/他社モデル所有/TZ購入予定) なんていうのもあった(乗ってる人の問題だと思っただけ)

さて、次は苦言である。腹をくくって聞いてみよう。弱点を知ってこそ勝者に

なれるのだから。

「スタンドアップタイプが好きなのに、ヤマハはタンデムが中心というイメージ。少しさみしい」(神奈川県/32歳・会社員/他社モデル所有)

「自分の周りではFX、SJの人氣があるのに、どうもヤマハはタンデムモデルばかりに力を入れているイメージがある。それにニューモデルラッシュだけど、どれもとってつけたよう。もっとじっくり開発して欲しい」(岩手県/38歳・会社員/他社モデル所有、1100RA購入希望)

「毎年ニューモデルが出るが、何だかみんな似ているような気がするのは私だけだろうか」(埼玉県/28歳・会社員/未所有)

「ジェットといえばやはりK社というイメージ。ヤマハも頑張っているが、もう

一步だろう」(埼玉県/33歳・パン製造業/未所有、レンタル会員)

「ヤマハに限らずモデルチェンジのペースが早過ぎるんだよなあ。ローンを払ってる最中にニューモデルが出てくると泣けてくる」(岩手県/38歳・会社員/他社モデル所有、1100RA購入希望)

「ヤマハは高い。値引きしてほしい」(千葉県/34歳・会社員/TZ所有)

「欲しいと思った時にすぐに手に入らないことがある。我慢して泣く泣く他社のモデルを買ってしまった」(茨城県/25歳・会社員/他社タンデムモデル所有)

こうした話は最前線にいる皆さんの方がよく聞かされているかもしれないが、ぜひともお客さまの生の声を編集部にお聞かせください。

今どきのW.V.ファン……⑤

いいジョップ、嫌なジョップは……

よく話を聞いてくれる、明るく店がいい
ラインナップ全モデルを展示してくれ!

さて、今回の特集の本题に突入だ。今回お聞きした話では、ほとんどのユーザーが他社系列のジョップも含めて現状には満足していることが伺えた。が、過去、嫌な思いをした人、またこれから買おうとしている人の中には「ジェットジョップってどんなところ?」と不安におの

いているケースもある。

まずは、お店の雰囲気。

「ジョップの仲間でチームを作ったり和気あいあいとした感じはいいですね」

(埼玉県/33歳・会社員/他社一人乗りモデル所有)

「常連客でにぎわっているお店はいいと

思う。仲間にはいって一緒に遊びたい」

(埼玉県/28歳・会社員/未購入)

といった意見はかなり多かったのだが、これと正反対のものもある。

「常連がショールームにたむろしているような店は入りづらい」(埼玉県/22歳・専門学校生・女性/未所有)

「頻繁にお店に行かないこつちも悪いが、常連の一部だけで仲良くされると疎外感を感じてしまう」(埼玉県/30代・保母/友人が他社モデルを所有)

難しい問題だが、クラブハウスとショールームを別にするなどの工夫があれば避けられそうではある。

次はそのショールームについて。

「ショップに商品が展示してあることが条件。実際に見て選びたいからね。カタログだけで説明されたってわかる訳ないよ。やはり本体の展示は基本中の基本。それに展示モデルも多ければ多いほどいいに決まっている」(埼玉県/28歳・会社員/未購入)

「K社のショップは比較的展示している商品が多いと思う。ヤマハのショップに行っても商品を見れないことが多い」(静岡県/35歳・会社員/物色中)

「どのお店も店内で露出している商品が少ないような気がする。こんなのこの業界だけじゃないやろか」(大阪府/33歳・会社員/過去に所有歴あり)

「ジェット本体以外の小物や、アクセサリ、パーツがたくさんあるお店は用がなくても行きやすい。それにそういうお店は楽しさを感じさせてくれるから好きだ」(千葉県/年齢不回答・土木業/他社モデルをグループ所有)

在庫の問題は難しいが、ユーザーにとってはすぐにもものを見れる環境こそがお店選びのポイントになる。

「前に行った都内の店はBGMもなくておとなしい雰囲気だった。もつとウキウキする演出をしてほしい」(神奈川県/38歳・会社員/ヨット所有)

「ショップはきれいな方が良い。雑然としているのが専門店っぽいなんで、勘違いだ」(神奈川県/35歳・会社員/700

RA成約直後)

お店の雰囲気作りも大切なのだ。

さて、次は購入後、アフターサービスについての注文だ。半数以上のユーザーは現状にほぼ満足しているが、注文もまだまだある。

「今のお店は最高だ。シールがちよつとはがれただけでもすぐに直してくれた」(神奈川県/年齢不回答・会社員/650

SJ、700FX所有)

こんな些細なところにユーザーというのは感じ入るものなのだ。

「スクールがついていて、きめ細かな指導してくれるお店がいい」「売りっぱなしの店があるらしいが、そんな店に当たったら嫌ですね」「ショップの担当者が人事異動でいなくなったり、独立されてし

ボートショーで聞いたショップへの一言/ベスト5

- ①ショップでチームを作って和気あいあいとしているところがいい
- ②しかし余りにも常連が目立つと初心者にとってはづらい
- ③展示商品が豊富でないとイヤだ(ヤマハのショップは特に少ない気がする)
- ④雑然としている方が専門店っぽいなんで、勘違い
- ⑤親切・丁寧なアフターサービスは当たり前である



まうと困る」「買った後の遊び方を教えて欲しい。それと安心して遊べる場所も教えてほしい」

これらアフターサービスに対する注文は跡を絶たない。

最後に、もう二度と御免といったユーザーの体験談をいくつかご紹介しよう(以下ユーザーの希望によりプロフィールは省略。でも実話です)。

「友人を自分の買った店に連れていったらしつこくセールスされてその友人共々嫌な思いをしたことがある。買い替える時、店も変えた。今はサービスも良いし満足している」

「以前、ある店で自分のジェットを他のお客さんにレンタル用として貸していたことが発覚。担当者が謝りに来たが、態度が悪かった。怒りを通り越して、呆れてしまった」

「以前買った時はバブルのころで店員が金のローレックスをこれ見よがしにジャラジャラさせていた。印象悪かった」

「つき合っていたショップがある日突然スノーボード専門店になってしまった。商売は責任持ってやってくれ」

こんなことはめつたにないだろうが、油断してはならない。

「サービスが悪い、セールスマンの態度が悪いといった噂は他のジェットの人がよく聞きます」(千葉県/24歳・会社員)

口コミは、ある時は格好の宣伝媒体となるが、時として致命的なダメージを与えることもあるのだ。





今回の特集記事の内容と掲載している写真は関係ありません

『ジェットライダー』編集長の見解は……

700VNに大いに期待

——その高馬力化についてはどのようにお考えですか。

佐藤 人はスピードというものにすぐ慣れてしまいます。高馬力のニューモデルが出れば、やはり注目するし、飛びつくでしょう。ヤマハさんとしてもこれを出せば必ず売れるという自信があったんじゃないですか。ただ今回の106馬力が云々ではなく、ただの高馬力競争になると、ユーザーも不純さを感じてくるんじゃないかね。

——確かに1100RAと同時に発表した700VNの注目度は今回の調査では1100にはかないませんでしたね。

佐藤 僕自身はあいつたコンセプトの明確なジェットは好きだし、一年前にもヤマハマリンニュースで述べましたが、こう言ったタイプのモデルはぜひ普及してほしいと思っています。でもやはり今のユーザーは高馬力志向なのでしよう。もし、700VNが700RAと並んで出たのなら注目度は今の比ではなかったと思います。

——ところで佐藤さんはマリンジェットに限らず多くのジェットライダーと接したり、意見を聞いたりしていると思いますが、いわゆる「今どきのジェットライダー」とはどのような人たちなんでしょうか。

佐藤 そうですね、一言でいえば「少年

の心を持った大人」でしょうか。僕たちは例えば文章などで表現する際、大体10代、20代といった層を対象に想定するんですが、実際の読者の平均年齢はそれよりも高い。30代後半の人もかなりいます。これを見てみますか？

（渡されたのは読者アンケートの解答の束。文面やイラストなど表現の方法を見ただけでは20歳も30歳も区別がつかない）

多くの人はロジックよりも直感で動く、というタイプなのではないかと思えますよ、気持ち良さや楽しさにシンプルに反応するタイプというか……。だからジェットをやる人はのめり込むんじゃないですか？

——なるほど。その他に表現する上で気をつけていることはありますか？

佐藤 ユーザーの情報収集力のすごさというのがあります。ほからが取材で知ったことを伝えてもほとんどの人が知っていたりとか。思わずこの業界の雑誌の限界を感じてしまったりして……(笑)。仲間意識が強く独自のネットワークがあるので、口コミの威力もすごいものがありますね。

——最後にジェットユーザーが支持するショップというのはどんなタイプの店なんでしょうか。

佐藤 僕は商売のプロではないので詳しくはわかりませんが、やはり商売の基本はどんな業界でも同じだと思います。あえて言うなら、ユーザーの良き相談相手というか、見貴分的なイメージのあるショップが受けているようですね。

——まず初めに、ヤマハマリンジェットに対してユーザーが抱いているイメージについてはどのように見えていますか。

佐藤 多くのユーザーが述べているように、マリンジェットは確かに完成度が高く、読者にも支持層が多いですね。後発メーカーというイメージは消費者の中にはほとんどないと思っています。ニューモデルの中では、1100RAがトップ人気なのですが、最近のユーザーの高馬力志向が顕著に現れていると思います。

今回の取材結果をウォーター・ピークルの専門誌『ジェットライダー』の編集長・佐藤格氏に御覧いただき、その感想と、佐藤氏自身が考える「今どきのジェットユーザー」についてお話を伺った。



佐藤さんの大切なお客さまの1人、行場さんの船W-24YFR(40HP)。今年は少し収穫期が遅れているというワカメ漁に、これから専念するところだという



浜

を訪ねて

宮城県／志津川湾

本吉郡志津川町

●佐藤鉄工所／佐藤憲雄代表

800人ものお客さまを支える 創意工夫と思いきりの良ナリで



船ばかりでなく、さまざまな漁具の組み立て加工が行われる佐藤さんの工場



景 勝地松島で有名な仙台湾から、牡鹿半島を越えて北上したところに位置する志津川湾。このあたりから北陸地方ならではのリアス式海岸が続くようになり、どここの湾でも静かな入江を利用して牡蠣などの養殖漁業が盛んに行われている。

ここ志津川湾で、創業以来25年間に渡って和船や養殖機器の販売修理を営み、浜の漁師さんたちを応援している佐藤鉄工所の取締役代表、佐藤憲雄さんに話を伺った。

「学校を出ると、気仙沼にあるエンジンメーカーに勤めました。小さな支店だったので色々な仕事をやらねばならず、いまではこのときの経験が独立の際に役立ちました」

佐藤さんは、わずか24歳のときに独立し、実家のある志津川町へ戻って店を開いた。「24歳という若さが大きな武器でした。この歳なら万が一失敗しても、またどこかの会社に勤めることができるでしょう。失うものが何もなく、状況が良い結果を生みました」

そうは言っても、浜で佐藤さんを知っている人は少なく、まずは顔を売ることから始めなくてはならなかった。しかも、この仕事は注文を受けても修理や加工設備が整っていないければ話にならない。

「最初のうちは、一人でできる船外機の修理などから始めました。そして道具を揃えながら、しだいにディーゼルエンジンのオーバーホールやイクスの組み立て加工など仕事の幅を広げて行きました」

佐藤さんを助けたのは、ご自身が根っからの工作マニアだったことだろう。機械いじりが好きなことを活かして、いろいろな漁

佐藤鉄工所

- 創業……昭和46年
- 従業員……7名
- 商圏……志津川湾一帯
- 主力商品……W-24YFR、船外機40PS、ヤマハ製ワカメボイル釜など

志津川は、波の静かな湾内を利用しての養殖業が盛んで、その種類も豊富。毎年1月から3月まではワカメの収穫に忙しく、3月から10月ぐらゐまで名産のホヤが旬となる。また、これらと平行して全国的に有名な松島牡蠣やホタテ、銀鮭などの飼育～収穫に追われ、浜は何らかの養殖で1年中賑わっている。取材で訪れたとき、港の共同作業場では佐藤さんのお客さまの1人、行場博文さんが牡蠣の身取り作業に追われていた。

「朝3時頃から船を出して収穫し、午後は5時頃までオカ作業になります」と行場さん。取材した3月は牡蠣のシーズンが終わる頃で、そろそろワカメ漁に切り換えると話していた。行場さんがワカメ漁に使用する船はYFR24(40HP)。浜では22ftが多いという。

帰ってきた銀鮭

「かつて、天然の銀鮭は2億円もの水揚げがありました。が、漁獲高が減ってしまいました」と佐藤さん。現在は、卵を買ってきて淡水で孵化させ、海水で半年ほど育てた後で水揚げする養殖が盛んに行われている。

「それでも近年、天然物の水揚げもしだいに増えてきました。稚魚を川に放流する努力が、徐々にですが実りつつあります」

天然物の収穫は秋から1月まで続く。地道な努力で、かつての賑わいを早く取り戻したいところである。



広大に広がる志津川湾に、所狭しと並ぶ養殖棚やイケスの数々。いかに漁業が活性化されているかがわかる港内の共同作業場で牡蠣の身取り作業に追われる行場さん。一家総出の仕事だ



佐藤鉄工所の取締役代表を勤める佐藤憲雄さんと、職場を明るくする佐藤さんの良きパートナー、入社2年目の今野さん

一見すると風呂桶だが、これも大切な漁具の1つヤマハ製ワカメボイル釜である。佐藤さんは、この釜にバーナーを取り付け出荷する



現在、志津川では新港を整備中とのことで、佐藤さんの工場もできれば新しい港の近くに移転したいと語っていた。24歳で独立し、着々と事業を拡大してきた佐藤さん。創業から25年が過ぎた今日でも、チャレンジ精神だけは独立当時と変わらないようである。

「800人ほどの漁師さんが、私どもの大切なお客さま。そのうち200人ぐらゐが展示会に足を運んでくれますから、1年の事業計画を組むうえで大きなポイントになります。展示会では和船と船外機のラインナップをそろえ、より多くのニーズに応えるようにしています。養殖が中心なため、24×28ftの和船が主体ですが、船のサイズは年々大型化の傾向にあります」

佐藤さんのところでは、毎年7月に展示会を開き、1年の計を立てている。

「養殖業といっても、ここの浜ではホタテ、牡蠣、ホヤ、ワカメと種類が多く、銀鮭も手がけています。だから浜は1年中忙しく、比較的落ちつく夏場が営業をかける大切な機会。お盆までに注文を取って、秋から始まる漁師さんたちの繁忙期に備えています」

「現在、修理など現場仕事が半分ぐらゐを占めますが、志津川湾は養殖業が中心だから、残りの半分は漁具の組み立て加工など工場内での仕事になります」

和船や船外機を手がける一方、佐藤さんは養殖漁具にも力を入れ、ワカメを加工するボイル釜や塩を絡めるミキサーなども手がけている。佐藤さんの工場内に、どうしてFRPの風呂桶が並んでいるのだろうと思ったところ、実はワカメのボイル釜だった。もちろんメイド・バイ・ヤマハである。聞けばヤマハの大船渡工場で作られ、佐藤さんのところでバーナーをセットするのだという。

目指そう、1000隻



特に30代のサラリーマンという層に支持されたSRV (東京国際ポートショーより)



2月6日に発表され、3月1日、ついに全国一斉発売されたニューコンセプトボート・ヤマハSRV。専門誌で展開されたティーザー広告などで、発表前から話題に上り、発表後には遊び心いっぱいのプロフィール、その価格設定に誰もが驚いた。そして今、全国各地でその姿を消費者に見せ始めた。7回にわたってお届けする期間発行『SRVニュース』の第1号は、各地で行われているSRVのお披露目の場をレポート。来場者の反応、さらに販売店さんの意気込みをお伝えしよう。

「東京国際ポートショー」で堂々デビュー 期間中の成約、PP確保も続々

SRVが発表された翌日の2月7日午前11時、東京国際ポートショーのヤマハブースで行われたプレスコンファレンスは、SRVを一目見ようという大勢のプレスにぎわいを見た。期間中のポートショー関連のTV報道、新聞報道はもちろんSRVが主役。「より多くの幅広い層へマリネレジャーを提案する」という第一段階の目的達成に向け、順調なすべり出しを見た。

もちろん報道関係者だけでなく一般来場者の反応も上々。健康的なアウトドアムードいっぱいウェアに身を包んだSRVレディーがSRVのバンフレットを配布し、多くの来場者にSRVをアピール。また、積極的にアンケート調査を行い、東京地区の営業アプリチ用リストも完成した。

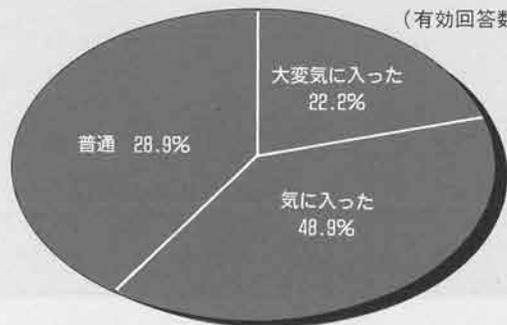
当初東京地区では保管場所の問題等、不安材料もあったが、期間中の成約、PP発掘も好調で、ヤマハ東京の営業担当者も「東京管内で年間200隻はいきたい」と自信を見せていた。

なお、別表は今回の東京ポートショーで行ったアンケート調査の結果の一部である。対象は元々ボートに興味のある消費者が多いと予想されるが、それでも70%以上がSRVに対して「気に入った」と回答。また、圧倒的にサラリーマン層に支持されているのが特徴的だった。

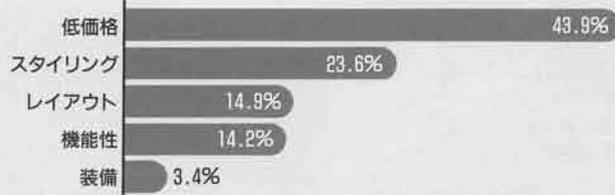
SRV・ポートショー会場アンケート集計結果

●総回答数/456名

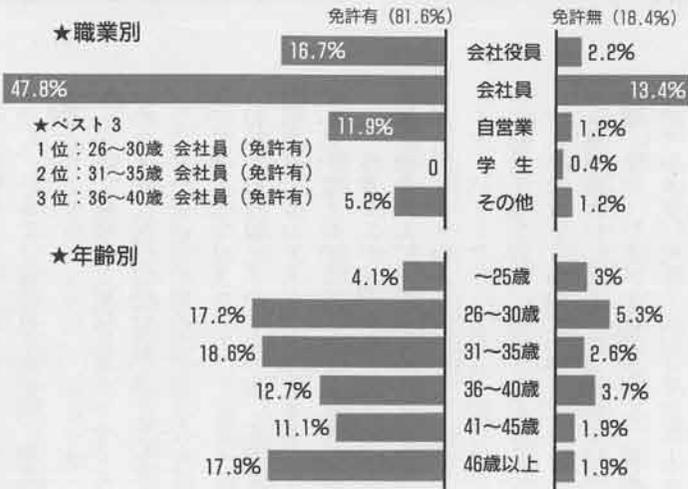
●SRVをご覧いただき、どのように感じになりましたか？
(有効回答数/415名)



●どのようなところが気に入りましたか？ (有効回答数/296名)



■「大変気に入った」「気に入った」の回答者層 (有効回答数/268名)



来場者インタビュー

当日ヤマハブースで契約をされた方に、SRV購入の動機をお聞かせいただきました。

●プロフィール

S・H氏(40歳)会社員(東京都文京区在住) 妻・子供3人(長女8歳、長男7歳、次男5歳) ポート歴7年(ヤマハスターエースからの代替「船底型状」を見る、走りだけでなく安定性も良さそう。センターウオークスルーで移動も楽。うちは子供がいるので、安全に、しかも有効に使えるこのスペースはうれしい。色々な遊びが楽しめそう。150万という手頃なプライスで、手の届く価格が魅力。スタイルも漁船に比べ、ずっとスタイリッシュ。とにかく、家族で安全に、いろいろな遊びが楽しめそうなのでSRVに決めました。



■SRV/全長6.00m/全幅2.00m/全深さ1.01m/船体重量460kg/最大搭載馬力50ps/燃料タンク容量24ℓ×3/定員6名/航行区域 限定沿海

日本人のマリンレジャー観を変えるか？ 東で西で、そのプロフィールに驚嘆の声！



環境が整った広島では爆発的な人気が予想されるが……。結果が楽しみ

「広島でいち早く展示会」開催 販売店さんも確かな手ごたえを掴んだ

ヤマハ関西・広島店では、2月24日から25日にかけて、市内の特設会場で95モデルの展示会を開催した。ここでも主役は会場入口付近のほぼ中央に展示されたSRV。キャンペーングッズと、マリングッズでデコレーションされたSRVはいかにも楽しさを予感させたが、同時に、150万円のローン支払例、ヤマハが運営に参画しているマリナーの特別料金表もパネルで表示され、多くの来場者の目を引いていた。

熱心に見ている30代後半の夫婦にSRVの商品説明をしていた広島市のマリンプラザ／デルタマリンの若手セールスマン、児島一成さんは「反応は上々です。僕から見ればこの

●SRVニュースは、10月まで毎月発行。ヤマハマリンニュース発行の6、8、10月は本誌中の記事で、それ以外の月は号外として発行の予定です。

車だけの館内でひと際かがやいていたSRV。多くのRVファンが興味を示した



SRVを見た後、さっそくポートライセンスコーナーへ足を運ぶ来場者も

- RVショー
- 総入場者数……………141,435名
- 資料配付部数……………約4,000部
- SRVアンケート数……………252名

「RVショー」にSRVが乱入！ 来場者はその価格に驚嘆

東京ポートショーが行われた翌週末、2月17～19日の3日間、同じく晴海の国際見本市会場で開催された国際RVショー。RV車とそのアクセサリーパーツを主体としたそのショーに、何とヤマハがSRVを出展した。

車だけの館内にポートが展示されたヤマハのブースは注目度は抜群。熱心にSRVを見つめていた来場者10人ほどにインタビューしたところ、ポートショーにも来たという一人を除いた全員が「これまでポートは500万円ぐらい、最低でも300万円はするものと思っていた」と話し、さらに「海やマリンレジャーには前から興味があった。ポートも予算が許せば欲しい」と思っている方がほとんど。
「今回はまずポートが決まって高くないということがわかってもらい、興味を持ってもらうことが目的」とブースの担当者は語っていたが、取材中、40歳ぐらいの男性が「これ、本当に150万円か」を何度もセールスマンに念を押した後、そのまま商談室に消えていったという現場にも出くわした。あのお客さまはどうしただろうか……。

ポート、この価格、この保管料を見れば買わない理由なんて無いような気がします。この広島なら海水浴やキャンプなど遊び場もたくさんあるし、いけると思えます」と好感触をつかんだ様子。

また、豊田郡に本社を置くマリンショップ／サン・マリーンの取締役部長、五反田稔さんも「うちではとりあえず5隻をオーダーしました。特に免許取得者に対してアピールし、この3月から5月にかけて売り切りたいですね。フィッシング需要のほかにMJのユーザーにすすめてみるのも面白いかもしれませぬ」と語った。

CAMPAIGN

SRVキャンペーンが本格的にスタート!
「らくらくクレジットキャンペーン」と合わせて
今が売りのチャンス!

実質年率
4.9%
SRVが月々わずか
10400円

ヤマハの95年戦略商品として期待のかかるSRV。2月のポートショーで華々しくデビューを飾り、その後も、RVショーをはじめとするアウトドアショーへの出品、またマリオン専門誌・アウトドア雑誌などへの広告出稿と、広くSRVの露出をはかっています。

また、みなさまに有利なご商売を展開していただくためにロングランのキャンペーンを予定。その第一弾として、4月1日より6月末日まで「らくらくクレジットキャンペーン」と合わせて低金利セールを実施しています。

¥150万円、という低価格ポートのイメージから、さらに手頃で購入しやすい値段であることをお客さまに意識させ、購買意欲を刺激することを目的としています。

低金利ステッカーをはじめ、キャラクターTシャツ・ステッカー、バンドナなど、来店客へのノベルティグッズもご用意しております。

店頭ではもちろんのこと、DM発送先のリストチェック等、多くのお客さまにお知らせできるよう、積極的な展開をお願いします。



●キャンペーンツール



★キャラクターTシャツ



★キャラクターステッカー

★SRVバンドナ

■お問合せ/ヤマハ各販売会社

●お支払い例

販売価格	¥1,500,000	
頭金	¥ 500,000	
残金	¥1,000,000	
支払回数 (60回)	第1回目	¥15,900
	第2回目以降	¥10,400
ボーナス月併用	¥50,000×10回	

(オプション・船舶検査費用・消費税は含まれていません)

GOODS

Wave Getterシリーズにニューグッズ新登場
「アクアバイザー」

今シーズンからラインナップに登場したMJ用品の「Wave Getter」シリーズに、MJ専用ゴーグル「アクアバイザー」が加わりました。

ハードコートに撥水性フッ素コーティングをプラスした、水、気密性の高いゴーグルです。アクティブライディング派のジェットライダーにおすすめの商品です。(4月下旬発売予定)

- ▼カラー/ブラックリポ
ピンクリポ
- ▼サイズ/フリー

¥6,800(*実用新案申請済)



釣りマニアに便利な機能が満載「クイックホルダー135」

ヤマハでは、小物釣りから大物釣りまで対応できるフィッシング機装「クイックホルダー135」を発売しました。ポートフィッシングに便利な機能を充実させています。

「主な特徴」

- ▼デッキマウントベースにワンタッチで装着でき、船内での移動も簡単にできます。
- ▼ロッドクランパー部は45度刻みでの固定と、360度フリーの2段階対応。
- ▼竿受け部は30度刻みで固定可能。潮の流れに合わせるなど、自在に対応できます。
- ▼竿受けアームは角度調整ネジ付きで、水平から任意の角度まで調整できます。クランパー部も90度はね上げ可能で、獲物の取り込みが便利です。
- (豊富なオプション)
- 電動リール等のコネクタBOX ¥12000
- ワンタッチ取付用コマセBOX ¥5800
- 電源コード ¥5500
- ホルダークランパー ¥2800

■お問合せ/ヤマハ用品営業課

株式会社サンコー社製 ¥13,500



*詳細は、「'95マリンアクセサリーカタログ」をご参照ください。

今や空前の釣りブーム。その道具にこだわるマニアも増加していると思われまます。フィッシングファンのお客さまに、ぜひご紹介ください。

根強いマリンスポーツで賑わった
『東京国際ボートショー』



マリンスポーツの熱い視線を集めていたSRVコーナー

『第34回東京国際ボートショー』が、2月7日から12日まで東京・晴海の国際見本市会場で開催されました。総入場者数は10万8875名と昨年を下回りましたが、ヤマハでは契約隻台数、PP台数ともに、昨年を大幅に上回る実績となりました。『海へラブコール』をメインテーマとした今年のヤマハブースは、ポイント・エンジン/ヨット/マリンジエットのコーナーとは別に、エントリーポイントコーナーを設け、『SRV』を中心とした、新規需要層への積極的なアプローチを展開しました。他にも、『PC-41SF』をはじめとする定番の外洋フィッシングボート、マルチフィッシングボートとして根強い人気の『タックル』シリーズ、速くて楽しいヨット、『フェスタ31』、マリンジエットのニューモデル『MJ1000RA』、『MJ1700VN』など、数多くのモデルが来場者の注目を浴びていました。このボートショーで一気に高まったお客さまのマリンへの関心を、春のビジネスにぜひとも結びつけたいものです。

『みんなで守ろう環境と安全』
『PW安全協会/第6回通常総会』

ボートショー期間中の2月8日、東京・晴海のホテル浦島において、パーソナルウォータークラフト安全協会（PWSA）の第6回通常総会が開かれました。

PWSAはヤマハをはじめ、水上オートバイと呼ばれるパーソナルウォータークラフトのメーカー及び販売店などによって組織され、PWCユーザーへの安全啓蒙、ゲレンデ周辺の環境保全・改善、PWの一般への理解促進などの活動を自主的に行っています。

この日の総会には来賓として、運輸省、海上保安庁、警察庁、日本小型船舶検査機構、(社)日本舟艇工業会、(社)関東小型船舶安全協会からご担当者が列席されました。

景気低迷とは関係なく、堅調に伸び続けるPW市場を背景に、PWSAは平成七年を『PW安全講習会強化年』とし、『みんなで守ろう環境と安全』をスローガンに、積極的に活動していくことを認識していました。



通常総会で挨拶に立つ古谷鎌太郎会長

セイリングライフを満喫しよう
YSA入会・更新のご案内



良好なウィンドコンディションだった昨年のヨットウィーク



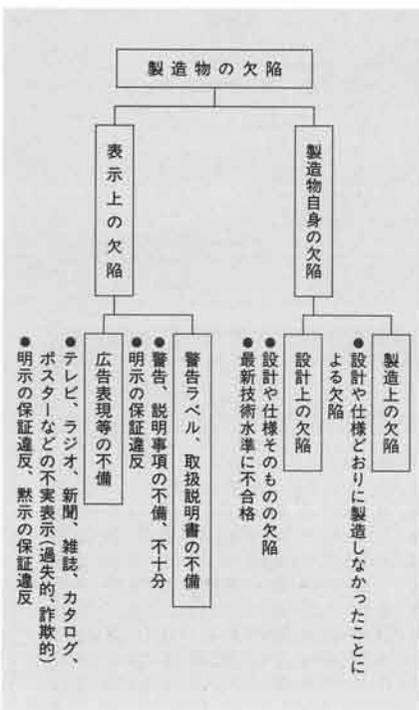
YSA協会報「テルテル」

ヤマハディングリーのオーナーとクルー、その仲間たちで構成されたYSA（ヤマハセイリング協会）は、1972年の設立以来、日本各地でレースを中心とした活動を通して、親睦を深めてきました。

昨年、YSA最大のイベントである『ヤマハヨットウィーク』の20周年記念大会を終え、ますます充実してきたYSA。シーズンインに先がけ、YSAでは95年度の会員を広く募集しています。

YSAの仲間とセイリングライフをより一層エンジョイするためにもディングリーファンはもとより、新規のお客さまへのアフターフォローとして、ぜひご紹介ください。詳しくは、各販売会社YSA担当までお問合わせください。

PL法と広告・表示の関係



PL法の責任要件が、『製造物の欠陥』にあることはこれまでも述べてきましたが、その欠陥とは、どのような内容を指しているのか、気になるところです。

これを理解する上で、1979年に発表されたアメリカの統一製造物責任モデル法がわかりやすく参考になると思います。ここでは、『製造物の欠陥』として次の4種類が明記されています。

- ① 製造上の欠陥
- ② 設計上の欠陥
- ③ 警告または指示上の欠陥
- ④ 明示の保証違反という欠陥

被害者が欠陥の存在を証明する場合、製造上、または設計上の欠陥を証明することは大変困難ですが、③と④の欠陥については、明示の保証違反を犯している広告宣伝物やカタログ、説明不十分な警告表示ステッカー、取扱説明書等があれば十分に立証が可能なわけです。

さらに欠陥判断の基準は、例えば広告などの場合、メーカーが何を言いたいのか、意図したかは関係なく、消費者が何を期待したかという点に

焦点が当てられます。前回に続いてアメリカの事例をご紹介します。

時速約150キロのスピードでカーブを回ろうとしたA氏は電柱に激突、重傷を負いました。その時乗っていた車のメーカーを相手にPL訴訟を起こしたのです。

その内容は、『このような無謀な運転をしたのは、メーカーのシヨールムで見たTVCMによって誤った方向に導かれたのだ』というものです。そのCMはその車でカーチェイスを繰り広げる映画のワンシーンから編集されたものでした。

もちろんメーカーとしては有名な俳優が当の車に乗り込み、激しいカーチェイスを繰り広げるのはあくまでも映画のシーンであって、一般消費者の運転例として意図したものでないことは明らかです。ですが結局は示談となり、莫大な金額を支払ったのです（もし裁判が続いていれば原告が勝訴したと思われるでしょう）。

このように製造物の欠陥とは、消費者主導であることを留意する必要があります。

「メルボルン/大阪YAMAHA OSAKA CUP
ダブルハンドヨットレース1991」より



ヤマハマリンアカデミー

マリンのプロフェッショナル育成を目的とした「ヤマハマリンアカデミー」は、開講して以来、今年で5年目を迎えました。営業マン、サービスマンのスキルアップ・スキルチェックの場として、またマリンプレイ体験の場として、多くの受講者を送り出してきました。

4月よりスタートする第10期は、前期より設立された「通信講座NAVI」(航海講座I・II受講者対象)を含め、合計9講座ご用意しています。

この時期、新入社員教育の場としても、ご活用していただけたと思います。みなさまの積極的なご参加をお待ちしております。

●お問い合わせは、担当販売会社まで。また、6名以上でのお申し込みは、スケジュール等ご相談に応じます。

講座名	日程
エンジン講座I	4/22~25 6/13~15
エンジン講座II	5/16~18 7/4~6
航海講座I	6/7~10 7/12~15
航海講座II	5/24~26 8/24~26
ヨット講座I	4/26~28 7/26~28
ヨット講座II	5/10~12 9/27~29
スポーツフィッシング講座	6/21~22 8/2~3 8/30~31 9/19~20
商品概要講座	4/19~21

●通信講座NAVI

講座名	受講期間	レポート提出	講座内容
航海	5月	~6/10	沿岸航海/航海計器/潮汐
運用	6月	~7/10	用語/錨/操船/海難/気象
法規	7月	~8/10	海上衝突予防法/海上交通安全法/港則法

※終了認定スクーリングを講座終了後3ヶ月以内に実施する予定。

募集対象者...マリンプラザ、マリンショップ、サービスショップ、サービス指定店、ヤマハ販売会社のマリン営業マン、マリンサービスマン及びマリンパーソン

開催場所...●ヤマハ発動機株式会社・研修会館
静岡県磐田市新貝2500 ☎(0538) 35-9711
●ヤマハマリーナ浜名湖
静岡県湖西市入出字長者1380
☎(053) 578-0713

問い合わせ先...●マリンアカデミー事務局
☎(053) 594-6518

マリンアカデミー修了者(敬称略・順不同)

●第9期

▶航海講座I

小川昭司(ヤマハ長崎)、谷口幸生(ジャンボマリン)
山田繁広(ヤマハ中部S.C.御津)

▶通信講座NAVIスクーリング

野崎正人(札幌店)、屋代光一(函館営業所)、中島猛(S.C.小樽)

YAMAHA ON and OFF

マリン、そして、モーターサイクルの世界が生まれ出すドラマを、ヤマハならではの感覚でとらえたテレビ番組ON and OFF。今年も海の魅力、陸の魅力を、大いに満喫する人々の姿を通して、余すところなくお伝えしていきます。ご期待ください。

■テレビ北海道	土/18:30~18:45	■テレビ大阪	土/18:30~18:45
■山形放送	金/25:10~25:25	■びわ湖放送	金/22:30~22:45
■東北放送	木/24:45~25:00	■奈良テレビ	土/22:15~22:30
■テレビ東京	土/18:30~18:45	■テレビ和歌山	土/18:30~18:45
■テレビ信州	金/25:10~25:25	■テレビせとうち	土/18:30~18:45
■静岡放送	日/24:40~24:55	■伊予テレビ	土/11:30~11:45
■テレビ愛知	土/18:30~18:45	■テレビ新広島	木/24:45~25:00
■三重テレビ	金/18:15~18:30	■T.X.N.九州	土/18:30~18:45

EVENT

今年も見逃せない! 話題のイベントが目白押し

95年マリンイベントのスケジュールがほぼ決定し、見る側にとっても参加する側にとっても、楽しみのおひつになることでしょう。
そこで、その見どころと、今年のおもなイベントスケジュールをご紹介します。

●95年の見どころ クルーザーレース

4年に一回開催される外洋ヨットレース「メルボルン/大阪 YAMAHA OSAKA CUP」。4月下旬には大阪港にフィニッシュする予定。南半球から北半球へと、過酷なレース展開が予想されます。

◆インギールレース

ジュニアからベテランまで幅広い選手層の活躍が期待されます。

マリンジェット

各地で行われる「マリンジェットジャンボリー」、9月の全国大会と、今年もジェットライダー達の熱い戦いが繰り広げられそうです。

ボートフィッシング

昨年のビルフィッシングトーナメントは猛暑による水温上昇で、ヒット、ランディングともに記録的な結果となり、大いに盛り上がりしました。今年はどうな大物がランディングされるか、見逃せません。

●95年主なヤマハ関連イベント

CRUISER

開催日	イベント名	開催場所
3月25日(土)~	メルボルン/大阪 YAMAHA OSAKA CUP ダブルハンドヨットレース1995	メルボルン(スタート)
3月26日、5月14日、7月9日、 9月9~10日、10月29日	ヤマハシーズンカップシリーズ	西浦
4月29日(土)~30日(日)	関西ミニトン選手権	レイクウエストヨットクラブ
6月4日(日)	スーパーウェイブカップ第1戦	三崎
7月30日(日)	ヤマハカップヨットレース	小樽港沖
10月7日(土)~10日(火)	ミニトン全日本選手権大会	琵琶湖
10月15日(日)	スーパーウェイブカップ第2戦	夢の島
11月中旬	ニッポンカップ国際マッチレース	葉山
11月下旬	実業団マッチレース	未定

DINGHY

3月30日(木)~4月2日(日)	JMPFジュニアチャンピオンレガッタ	浜名湖
5月20日(土)~21日(日)	シーホッパー級東日本選手権大会	いわきサンマリーナ
7月15日(土)~16日(日)	シーホッパー級西日本選手権大会	唐津
9月9日(土)~12日(日)	国民体育大会(ヨット)	いわきサンマリーナ
10月7日(土)~10日(火)	国体リハーサル大会(ヨット)	広島県
11月2日(木)~5日(日)	全日本シーホッパー級ヨット選手権大会	浜名湖
11月3日(金)~5日(日)	ヤマハヨットウィーク	浜名湖

MARINE JET

5月11日~14日、18日~21日、25日~28日	MJ ツーリングinはいむらぶし	小浜島
9月23日(土)~24日(日)	MJ ジャンボリー全国大会in彦根	琵琶湖

BOAT FISHING

4月22日(土)~23日(日)	ヤマハフィッシングキャンプ	沼津静浦
6月15日(木)~18日(日)	八重山ビルフィッシングトーナメント'95	小浜島
6月23日(金)~25日(日)	ヤマハフィッシングキャンプ	合歡の郷
7月7日(金)~9日(日)	土佐ビルフィッシングトーナメント1995	高知県夜須町
7月13日(木)~15日(土)	勝浦ビルフィッシングトーナメント1995	那智勝浦町
7月14日(金)~16日(日)	'95合歡ビルフィッシングトーナメント	合歡の郷
7月19日(水)~22日(土)	下田国際カジキ釣り大会	下田
8月25日(金)~27日(日)	ヤマハフィッシングキャンプ	山口見島沖
9月1日(金)~3日(日)	遠州灘ビルフィッシングトーナメント	ヤマハマリーナ浜名湖
11月24日(金)~26日(日)	ヤマハフィッシングキャンプ	室蘭

その他

7月未定	浜名湖ソーラー&人力ボートレース	浜名湖
7月未定	熱海オーシャンカップ	熱海

ご声援ありがとうございました

ニッポンチャレンジ、ファイナル出場ならず アメリカズカップ'95



お疲れさま、ニッポン。これからも熱いチャレンジを忘れるな！

アメリカズカップ'95のチャレンジシリーズ「ルイ ヴイトンカップ」で、準決勝に進出、他国の強豪チャレンジヤーとアメリカズカップ挑戦権をかけて戦ってきたニッポンチャレンジでしたが、3月25日、セミアイナル3回戦第2日、8敗目を喫した時点でファイナル進出の望みが絶たれました。

2回目のアメリカズカップ挑戦となったニッポンチャレンジは、今回は予選ラウンドロビンから苦しい戦いを強いられ、ぎりぎりの4位でセミアイナルに進出。最新艇JPN

41を第4ラウンドロビンから投入するも、セミアイナルでは辛酸をなめることになりました。

現地の異常気象による、艇のセッティング上での戸惑い、そしてそこに起因する新艇投入のタイミング等、事情はあらゆるものが考えられますが、それは同じ条件で戦っている他国のチャレンジヤーも同じ。ニッポンとしては総合的な力不足を認めざるをえないかもしれません。

しかし、100年以上にわたって、数々の屈辱のドラマを繰り広げてきたアメリカズカップの歴史の中

で、今回のニッポンの敗北はほんのひとつまに過ぎません。今回の経験は必ずや次回、そしてこれから続くニッポンの挑戦に必ず生かされることでしょう。

ファイナル進出の望みを絶たれた後も、全力で戦い続けた南波誠艇長を初めとするクルー、そしてすべてのニッポンチャレンジスタッフに、感謝と賞賛の意を込めて拍手を送るとともに、ヤマハとともにニッポンチャレンジを応援くださった皆さまに改めてお礼を申し上げます。ご声援ありがとうございました。

クラブハウス内のマリンスティック。冬場の売れ筋はフリースジャケット。レストラン客も帰りによく購入していくという。また、クリスマスセールの開催や、季節物の入荷時には顧客名簿を元にDMで告知している



マリーナ・フェアウインドのみなさん。写真右がハーバースターの土利川さん

「島」という非日常的ロケーションが生んだ好結果 オーナーの滞在時間が増え、販売も堅調

瀬戸内海に面した商業港都市・尾道市の対岸に浮かぶ向島。一帯は、多くのシーマンが認める絶好のクルージングスポットだ。その瀬戸内の情緒あふれる向島でマリーナ・フェアウインドを運営し、そこを起点にボート・ヨットの販売を展開しているのが株向島ドックさんである。今回はハーバースターの土利川孝道さんに、同社のマリーナ経営に関するお話を伺った。



落ち着いた雰囲気オーナーズサロンも完備。利用客の滞在時間も増え、本体販売にも良い影響を与えている



ポート、そしてポートヤードは常に美しく、というのが基本。クラブハウスも洒落た造り。正面は海に向き、対岸の尾道からでもその美しい建物がよく見える



充実した施設と環境は お客さまからも好評

マリナーフェアウィンドのある向島へは、尾道市の駅前にある桟橋から片道5分程度の連絡船に乗って渡る。多くのマリニショップが幹線道路沿いに出店を求め、展示艇をより多く見せている昨今の状況を考えると、向島以外に東広島、尾道、府中までを商圏とする同社の場合、立地条件に関してはいささか不利なのではないかという印象を受ける。

しかし、同社のハーバースター・土利川孝道さんのお話を聞いてみると、決してデメリットばかりではないこと、それよりも立地条件が同社の大きなセールスポイントになっていることが伺えた。

「うちはクラブハウスの2階がレストランになっているんですけど、そこから見る尾道の風景は本当に素晴らしい。それだけでも尾道側からいらっしゃるお客さまには満足していただいています。それにここは台風が強いんです。数年前、瀬戸内に大きな被害のあつ

た台風19号の時も、ここはまったく大丈夫でした」

遊びの拠点であるマリナーとしては、これ以上はない、というロケーション。結果的には、そのことがポート、ヨットを販売していく上で、大きなセールスポイントとなっているのだ。

「オープン当初（8年前）は、経営の基盤を確立させるために（他の販売店で購入した）ヤマハ以外のオーナーさんも受け入れていましたが、今は、うちで購入したお客さまに限らせていただいています。特に積極的な告知はしていないんですが、マリニ専門誌などに記事として何度か取り上げられたことで、問い合わせは非常に多いです」（土利川さん）

もちろん、同社の現在の成功がロケーションだけに支えられているわけではない。マリナーとしての価値をいかに上げていくか、休日を通す利用者にとって、いかに満足行くペースにするかといった工夫が積極的に行われている。瀟洒なクラブハウス、雰囲気の良いレストラン、つい何か買い物をしたくな

るようなマリニブティックなど、施設の充実もそのひとつ。

販売した本体に関わるソフトは すべて提供できるのが自慢

また、多くのマリナーで、陸置きされたボートの船台の下によく物を置いてあるシーンが見られるが、土利川さんははっきりと「片付けてください」と注意するのだそう。また、船が汚れていたりした時も「そろそろ洗った方がいいんじゃないですか」といった具合に忠告する。

リゾートマンションのテラスに布団や洗濯物を干さない、というのに似た、暗黙のルールがここにはある。

「皆さんに気持ちよく利用していただけるよう努めています。でもきつと私なんか、お客さまにちよっと煙たがられているかもしれませんが」

と土利川さんは笑うが、それだけに、ポートヤードは非常に美しく、乱雑になりがちなサービス工場も整理整頓されていた。

レストランも営業しているが、オーナー以外の来店も多いという



また、「スタッフはよく遊ぶ」と土利川さんは言う。現在のタイプ別保管比率はボーティング、フィッシング、セイリングがそれぞれ3分の1ずつというが、「すべての本体に関わるソフトを提供できる」というのが同社の自慢だ。こんな話をしてくれた。

「いま社有艇としてヤマハ31Sを使っているんですが、若い女性をスキッパーにしてよくレースに出るんです。うちのお客さまには負けません。それにマッチレースの申し込みでも他のレースでも、誘われれば参加して勝負します。ついこの間、一人のお客さまがあんまり負けてばかりいるもので、ついに新艇に買い替えてしまいました」

こんな代替えのパターンはごく稀ではあるが、興味深い話だ。

マリナーがオープンして8年、クラブハウスなど施設が完成して5年がたつ同社だが、お客さまのポート、ヨットの利用回数や、一日の滞在日数は確実に増えているという。当然商談の機会も増えていることだろう。現在、保管場所を拡大する計画もあるという。

HOT EYE



太平洋縦断5,500マイルへスタート

『メルボルン/大阪 YAMAHA OSAKA CUPダブルハンドヨットレース』

南半球・オーストラリアのメルボルンから、北半球・日本の大阪までの5500マイルを、ダブルハンドで競う国際外洋ヨットレース——メルボルン/大阪 YAMAHA OSAKA CUP ダブルハンドヨットレース1995——が、3月25日、スタートした。この日スタートしたのは4か国26艇（4月1日時点でレイトスタート1艇を合わせ計27艇が参加）。海面は多くの観覧船で賑い、その声援を受けながら、レース艇は気持ちよさそうに、次々と大阪を目指していった。秋、夏、そして春という3つの季節を体験していく、非常に変化に富んだレースコースだけに、真剣勝負に臨むばかりでなく、大いに楽しみながら大阪を目指そうというレース艇も目立った。ファーストフォーム艇は4月下旬にフィニッシュ予定。前回の優勝艇は28日間6時間39分10秒でこのコースを完走している。今回の優勝艇は、そしてコースレコードは更新されるのか——レースの行方に注目したい。